

## 授業改善の手立てシート

過程	A 主体的な学び	B 対話的な学び	C 深い学び
第一次 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①興味・関心を持って取り組めるように、単元の魅力を語る。</li> <li>②学習の目的(身に付けさせたい資質・能力)が生活に役立つことを明示する。</li> <li>③モデルを示すことで、学習のゴールを具体的に見せる。</li> <li>④学習計画を示し、学習の見通しを持たせる。</li> <li>⑤学校図書館やインターネットから多様な情報を収集させたり提示したりして、自分の問いを持たせるための動機付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①答えが複数あるなど、単純に答えることができず、集団で解決する必然性のある課題を設定する。</li> <li>②個人の問いを共有させる。</li> <li>③課題に対する予想と解決方法を話し合う場を設定する。</li> <li>④話合いのルールを明示し、確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①少し難しい課題を設定する。</li> <li>②提示した問いの中から、自分に合った問いを選ばせる。</li> </ul>
第二次 (展開)	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥一人で自分の考えを持たせる時間を設定する。</li> <li>⑦自分の考えの過程を記録させる。</li> <li>⑧ブックリストやリファレンスサービスを利用して、生徒が自ら情報収集できる環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤話合いのテーマに合ったグループの形式、人数、構成を工夫する。</li> <li>⑥思考ツールを用いて、個人の考えを可視化する。</li> <li>⑦自分と他者の共通点や相違点を比較させることで、自分の考えを確かなものにさせる。</li> <li>⑧付箋などを用いて、立場を明確にした交流をさせる。</li> <li>⑨理由や根拠(なぜ、どうして)、具体例(例えばどうなる)など、問い返しの質問を一覧表にして、生徒がいつでも使えるようにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③思考ツールを用いて、様々な考えを比較したり関連付けたりする場を設定する。</li> <li>④ファイリングさせておいたワークシート等を振り返ることにより、既習の知識・技能を活用させる。</li> <li>⑤ヒントカードを用いて、思考を促す。</li> <li>⑥交流の内容を全体で発表したり掲示したりして共有させる。</li> </ul>
第三次 (まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨考えの過程を振り返ることで、自己の変容を理解させる。</li> <li>⑩身に付けた資質・能力が使える場面を提示することで、学んだことと学校生活や実社会とのつながりに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩共有した内容を基に、他者の意見を整理させる。</li> <li>⑪多様な他者からの評価の場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦毎時間、毎単元の終わりに必ず振り返りを記述させる時間を確保する。</li> <li>⑧導入で示した評価規準に基づいて、評価の仕方を具体的に説明する。</li> <li>⑨他者からの評価を参考にしながら、自分の考えを深め、確かなものにさせる。</li> <li>⑩ワークシートの中の振り返るポイントを示すことで、気付いたことや考えたことを言語化させる。</li> <li>⑪授業で「やったこと」「できたこと」「これからやってみたいこと」を自分の言葉で表現させる。</li> </ul>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。